

# 明治村 だより

2000 Summer



夏号  
Vol.20



## 目次

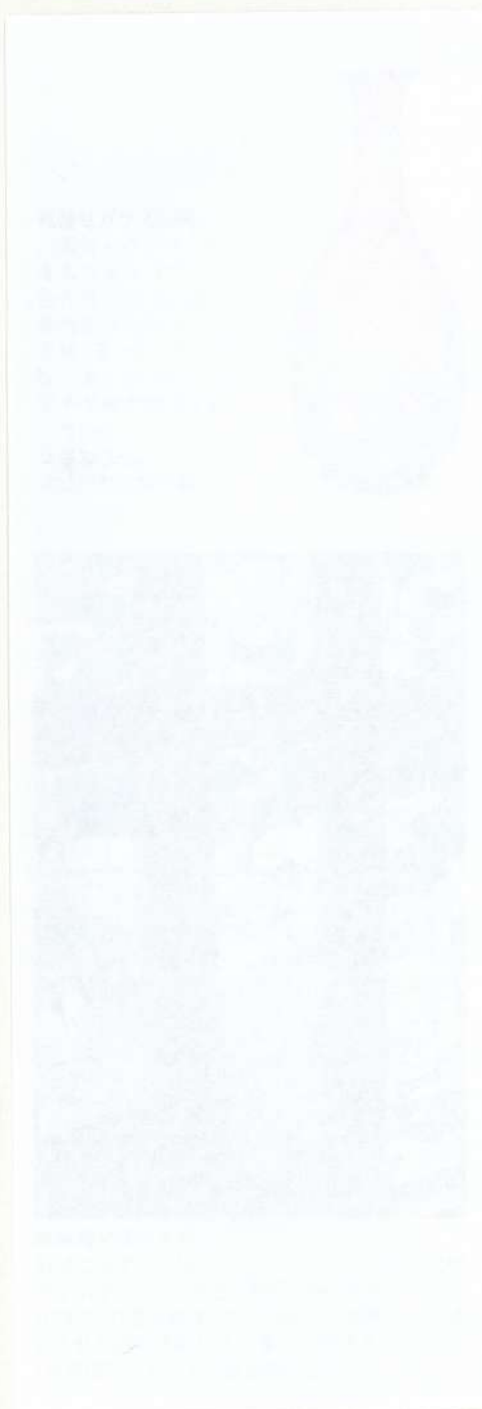
品川硝子製造所と明治のガラス産業	井上 暁子…2
百年前の世紀末	遠藤 照子…8
館蔵資料紹介 九 眼鏡屋の引札	大滝 恵…10
蔵書紹介 3 子供部屋をつくったら	遠藤 照子…11
明治村花図鑑 1 ハナミズキ	12
ミュージアムショップから 3	13
夏の明治村	14

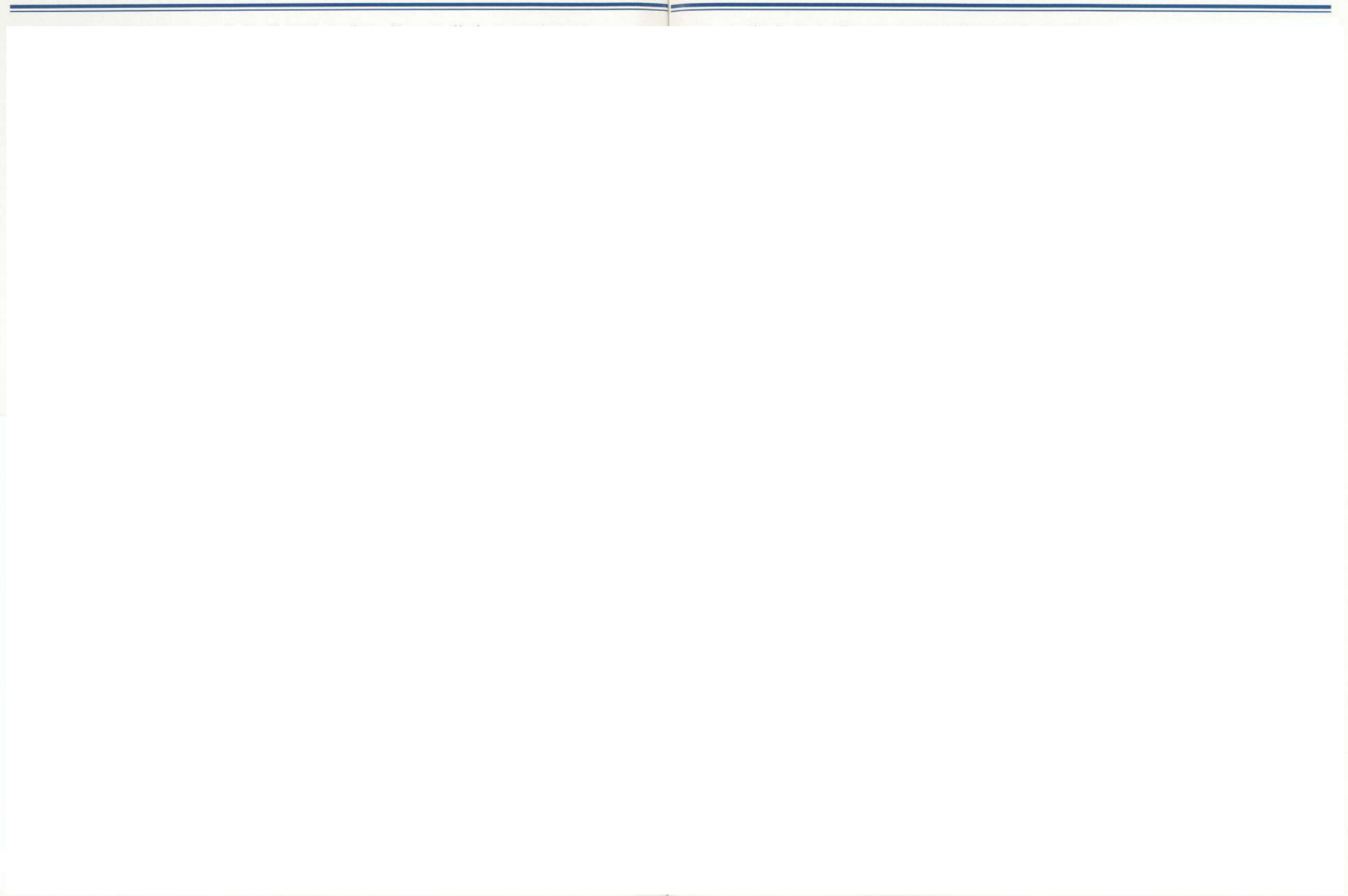
表紙写真 台ランプ (岡コレクションより)

「明治村だより」  
第二十一号発行のお知らせ  
発行時期 平成十二年九月(予定)  
申込方法 「明治村だより」第二十一号(希望の旨  
及びご住所・お名前を明記の上、送料  
一四〇円の切手とともに封書にてお  
申し込み下さい。

平成十二年七月一日発行  
「明治村だより」第二十号(平成十二年夏)  
発行 博物館明治村  
愛知県大山市内山一番地  
電話 〇五六八 六七〇二一四 千四八四一〇〇〇〇  
ホームページ <http://www.meijimura.co.jp/meiji-vil/>  
製作 大日本印刷株式会社







# 百年前の世紀末

遠藤照子(当館学芸員)

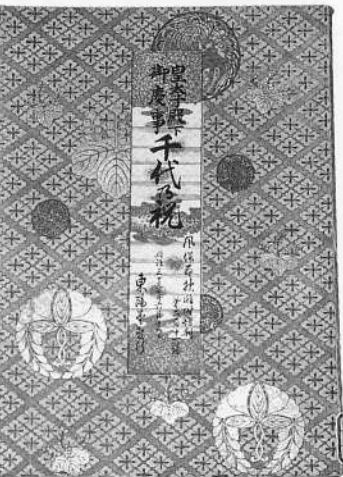


図1

味は尽きないようで、テレビなどのない時代、新聞や雑誌の特集号で大々的に取り上げられた。明治時代の大家雑誌「風俗画報」でも『千代乃祝』(図1)と題して臨時増刊を発行、通常の倍の頁数で構成し、皇太子妃の履歴から始まり式次第、御婚礼衣裳、調度、車、東

いう(新聞集成明治編年史第十一 昭和十五年刊)。しかし一方では「我国は紀元二千五百六十年なり、いたずらに欧米の文物を輸入して国体を脅かすものである」(「風俗画報」第二二五号・明治三十四年一月、論説「帝国は二十世紀にあらず」というような意見も根強いものがあり、それこそ一般庶民にとっては世紀末の何たるかを知り得ていたであろうか甚だ疑問である。

百年前の世紀末一九〇〇年(明治三十三年)および二十世紀初頭一九〇一年(明治三十四年)にどのような出来事があったかいくつか主なものを挙げてみたい。

明治三十三年の日本は、皇太子(のちの大正天皇)御成婚という慶事で始まった。何時の時代でもロイヤルウェディングに対する興

京市内や全国各地で行われた祝賀行事など事細かに掲載している(明治三十三年六月発行)。国際情勢では中国山東省で蜂起した反乱軍義和団が、清政府の援護を受けて徐々にその勢力を拡大し、遂に列強諸国と全面戦争にまで発展した。(北清事変) その脅威を怖れた列強諸国の出兵要請に応じてわが国も軍隊を派遣し応戦した。

こうした血なまぐさい事件をよそにパリでは電気照明を多用した最大規模を誇る万国博覧会が開催され四八〇〇万人の観客を集めたが、科学技術がすでに世界各国にまで拡大したという現実を再確認したのみで十九世紀に開催された博覧会も既に十一回目となり、全体としてややマンネリ化した印象はまぬがれない。

又この年、未成年者喫煙禁止法が公布され、違反した者の親に一円以下の罰金、子供に煙草を売った者に十円以下の罰金が科せられた。これは紙巻煙草の販路拡大のため箱に美人画などのカードを入れて売り出したところ、子供までが興味を持つようになって喫煙する者が増えたことを憂えての法律であった。このため祇園の未成年の芸妓が宴席が保てないといつて反対運動が起こったとか。子供歌舞伎芝居の舞台上でキセルを実際に使用してはいけないなど思わぬ方面まで波紋が広がった。

文芸の分野では、与謝野鉄幹により雑誌



図2

「明星」(図2)が創刊された。幅広い分野から執筆作品を集めて、文学美術総合雑誌を目指し、ロマンティズムに溢れた編集で一躍人気を博した。

携帯電話が普及した現在、公衆電話もすでに前時代のかたちになりつつあるが、新橋・上野駅に「自動電話機」(図3)と呼ばれた公衆電話が設置されたのもこの年であった。交換手と呼んで規定の料金を払った上で話せるシステムであるが、なかなか面倒であったとみえ苦情が多かったという。

翌三十四年四月二十九日には、皇孫(のちの昭和天皇)が誕生し、各地で祝賀行事が執り行われた。

義和団事件は、九月に列強十一ヶ国と清政府との間で最終議定書が調印されて解決した。

両年共経済情勢はさほど安定していなくて、



図3

日銀公定歩合の引き上げや株式暴落、投機失敗などにより各地で銀行取付、支払停止などがたびたび起こり銀行界が混乱した時期でもあった。

明治前期は、幕末生まれの人間が主導権を取って近代化へわき目もふらず邁進していた時期であったが、明治中期は次の世代が台頭し、外国の力に頼らなくてもよい時代となりつつあった。すべての面で新たな躍進が必要とされ、日清戦争を経験して国際舞台に乗り出した日本であったが、これ以後日露戦争、第一次世界大戦と度重なる戦役で国家の安定と確立を試されることになる。人間というならば成長期の青年時代といつてもよいであろう。その時代から百年たった今、そのあまりにも変貌を遂げた時代に比較する術も見当たらない。

## 館蔵資料紹介〔九〕 眼鏡屋の引札

ガラス製品は現在、私たちの身の回りにいくらでもあるありふれたものになっています。これに「びいどろ」「ギヤマン」ということばをあてはめてみると、何か違ったもののように感じられます。ガラスという言葉は工部省品川硝子製造所ができた明治九年頃から使われるようになり、それまでは「びいどろ」「ギヤマン」と呼ばれていました。「びいどろ」はポルトガル語の Vidro (ガラスの意)、「ギヤマン」はオランダ語の Diamant (ダイヤモンドの意、ダイヤモンド・ポイント彫に由来) からきています。

工部省品川硝子製造所では外国人技術者を雇い西洋式の製法を使って板ガラスやプレスガラスを作っていました。それと対照的に町中のびいどろ屋では、しばらくは従来のガラス作りが行われていました。「餅種」とよぶガラス生地を原料商である「種屋」から仕入れ、溶かして様々なものに加工するのです。今回ご紹介する引札(図1)を出していた大隅源助の店も、そのような店の一つと言えるでしょう。大隅源助は明治十年の第一回内国勲業博覧会に測量器械を出品して褒状をもらっており、また、明治二十三年の『東京買物獨案内』には眼鏡の項目にその店が掲載されています。

引札を見るとコップ、瓶などといったガラス製品だけではなく、眼鏡細工所と書かれています。ことからわかるように、レンズを用いた製品が多くあるのに気づきます。その一つ一つが特徴的な

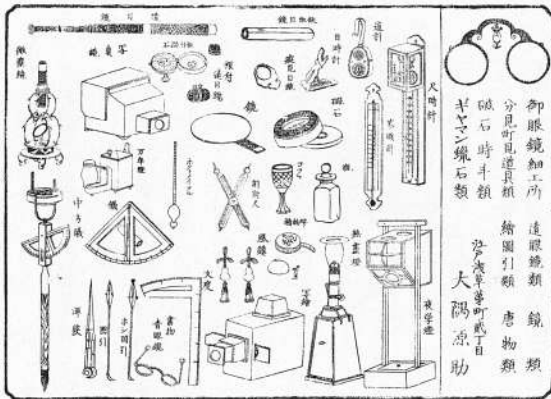


図1 眼鏡屋の引札

でいくつか取り上げて紹介します。このようなところからも当時の生活の様子や技術の程度が伝わってきます。

### 夜学灯

行灯に下向きにすみを切り、そこに集光用のレンズをはめ、手元を明るく照らせるようにしたもの。書見行灯ともいいます。

### 写絵

箱の中にもろくや石油ランプなどの光源を入れ、ガラス板に描いた絵をレンズで大きく映し出す装置。江戸時代には娯楽品でしたが、明治十三年からは文部省が Magic Lantern を幻灯機と訳して種板(スライド)とともに各府県の師範学校に配布しました。教育目的のほかに、日清戦争時には写真幻灯によって戦地の様子を知ることができました。

### 微塵鏡

顕微鏡のこと。極小のものを見るという意味から名づけられたと思いますが、顕微鏡という言葉はもともと中国で作られ、森島忠良著の「紅毛雑話」(天明七年)にすでに記載されています。この形はイギリスで創作されたカルペパー重三脚型と呼ばれるものです。

### 写真鏡

レンズを通して箱の中に入った映像を鏡に反射させて箱の上面のガラス上に映し出し、その上に薄い紙を置いて映像をトレースするための装置。写真機は映像を紙に化学的に定着させるものですが、写真鏡はその一歩手前の段階の装置です。

### 青眼鏡

明治二十年代初めに伊達眼鏡や色眼鏡が流行しており、「町に出ると青眼鏡に逢わない時はない」などと書かれていました。また、錦絵(図2)に描かれているところからも流行のほどが窺われます。



図2 眞美人 周延画

### 参考文献

由水常雄「江戸・明治のガラス」平凡社昭和五十四年  
白山晴也「眼鏡の社会史」ダイヤモンド社平成三年  
中川邦昭「カメラ・ギャラリー」美術出版社平成三年

大滝恵(当館学芸員)

## 蔵書紹介

### ③

## 子供部屋をつくったら

遠藤 照子(当館学芸員)

現在大抵の家では子供部屋なるものがある。広さは家によってまちまちであるが、まともな個室で鍵がかかる部屋もある。少子化の現象もあり、子供部屋といっても一つか二つであるが、他の部屋はあきらめても子供のためのスペースは必ずつくるのがどうやら常識となっている。

この子供部屋のあり方に警鐘を鳴らしているのが、今回ご紹介する「家をつくって子を失う」(松田妙子著 平成十年)という一冊である。最近当館に寄贈されたものであるが、この書名から受けるイメージは何か衝撃的である。

この本を書くきっかけは、著書がかつて街で行き会った年端も行かない少年の、年配者に対する不遜な態度に驚かされたことであるという。著者は三十年以上住宅産業の仕事を手がけてきた人で、わが国の貧しい住宅環境を改

善することに身を挺してきた。

家族の為に家をつくって家族を失うということとは一体どういうことなのか。著書は文中で次のように嘆じている。「子供部屋と家庭教育の現状に私は心を痛め、どうしてこんなことになってしまったのか、昔はこうではなかったはずだ」というところから、かなり厚い本文四四一頁の中に様々な問題提起がなされている。全体構成は一から六までの章に分けられ、写真や間取図を多用して戦後の住まいから書き起こし、生活革新のモデルとなった団地の建設、家庭電化製品の急激な普及という移り変わりを追いつながら、現在の住環境の現状を描いている。次いで書名の副題にもある中流住宅の歴史を明治時代にまで遡って考え、大正時代に興った住宅改良運動、アパートの誕生、学園都市と呼ばれた大規模な開発事業の経緯に触れ、最後に子供部屋の歴史

とその諸問題について実態調査をしたいくつかの例を列挙しながら言及している。

著者は文中で「多くの人がマイホームづくりを願いながら、ホームならぬハウスにもつばら関心をうばわれ、もっと重要なたとえば子供のための個室が利己主義製造の密室や非行の温床になりかねないことを忘れてはいないか」と懸念しつつ伝統建築の良さを家づくりに取り入れ、娘を中心にした家庭教育を復活させることを提言している。

子供が自分で物事を適切に判断できる年齢になるまで家庭との適切な接触は必須条件である。それぞれ家庭事情も異なるが、要は子供部屋の与え方と使い方であり、そこに工夫と知恵が必要とされるといえることである。子供がまっすぐに育たなければ将来の健全な社会は望めないといっても過言ではないだろう。

# 明治村花図鑑

1

ハナミズキ

明治村へおいでになるお客様から、ここは緑が豊かで花も多くて素晴らしい所ですね、とよくお褒めの言葉を頂戴します。日常的にこうした環境にいる私達にとってはごくあたりまえのことと思いますが、緑の乏しい都会に住んでいる方々に自然に回帰できる心休まる場所をご提供できるのではと思っています。

開村三十五周年を迎えて村を取り巻く自然環境は一層豊かになっています。かつてはアカマツの生い茂る荒地であった場所ですが、将来の為に四季折々の景観を考慮して順次さまざまな庭木や花などを移植してきました。ここでは明治村の展示建造物に彩りを添えている花木についておまなものを何回かに分けて取り上げます。

今回はハナミズキをご紹介します。ハナミズキはアメリカハナミズキと呼ばれミズキ科の落葉樹です。この木は樹液が多いことから「水木」と名づけられています。桜の季節が一段落した頃、四月から五月に直径七、八センチほどの白もしくは紅の花をたくさん咲かせます。ただ、この花弁に見えるものはいわばガクなので、本当の花は中心部に小さく

まとまっている部分です。秋になるとつややかな赤い小さい実をつけて花の時期とはまた違った景観が楽しめます。陽あたりの良い場所を好み、街路樹などによく見られます。

高さは通常は三メートルぐらいにまで成長しますが、明治村では五メートル以上のものも多くなっています。枝は半円形に大きく横に広がります。清楚な印象をもつ樹木として人気があるようで、今では寒冷地を除いて全国どこでも見られる樹となっています。

この花木は、明治四十五年、当時の東京市長尾崎行雄がアメリカのワシントンに桜を贈り、その返礼として大正四年アメリカから贈られた日米親善の樹として有名です。

日本にはいつてきた当初は、日本産のヤマボウシに似ているところから、アメリカヤマボウシとよばれていましたが、後にハナミズキが一般的な呼び名となりました。

明治村のハナミズキは、昭和五十三年、五十四年に東京の造園業者から成木十本と苗木二百五十本をご寄贈いただいたものです。丹精して苗木を育ててきましたが、幾分病気や虫害にも



遭ったためその数は減少していますが、現在、鉄道寮新橋工場（機械館）から宇治山田郵便局の周辺、聖ザビエル天主堂の周辺に約百本あまり育っています。これからは実のなる季節になりますのでぜひご覧になって下さい。

## ミュージアムショップから

3

今回ご紹介するショップは、村内展示建造物⑮の工部省品川硝子製造所にある「品川硝子ショップ」です。



ここは平成九年夏にオープンしました。かつて明治政府が国を挙げて板ガラスの生産を試みていた由緒ある建物です。当時は大変貴重なガラス製品でしたが、今ではごく普通の家庭用品となっていることを思うと

隔世の感があります。

現在のショップでは、約四百種類ほどのさまざまなガラス製品を扱っています。食器のほかにも可愛い工芸品やアクセサリーを数多く揃えているので、特に女性には大変人気があります。季節柄夏場には多くのお客様にご覧頂いています。

ここで販売しているグッズをいくつかご案内

します。



金魚鉢（一八九〇円）は、昔懐かしい形状をそのまま再現していま

す。金魚鉢は宙吹き製法によるもので江戸時代から作られていました。当時は浮世絵などにも描かれていたように単純な丸玉の形でした。明治時代になって丸玉とは別な形や大きさが異なるものが出回りはじめました。口縁に巾着型のひだをつけてその部分だけ青や赤のほかしをつけたものは、ランプ笠と同様に明治後期のデザインです。鑑賞魚は水槽で飼育する時代ですが、色鮮やかな金魚には昔ながらのこうした素朴なガラス鉢が夏の風物詩としてうってつけだと思えます。

みるくポトル

（二二六〇円）もち

よつと変わったもので、口に金具のついた明治時代に流行したガラス瓶



を模したものです。液状のものを入れた壺や瓶にどのような蓋をしていたかというところはまさに工夫・発明の連続でした。江戸時代までは壺の栓は概ね木片か壺と同様の焼き物で、茶壺に至っては紙でした。明治三十三年、牛乳を販売するのに衛生上の問題からそれまでのブリキ缶からガラス瓶に変わりました。この時の蓋は焼き物の栓に針金のバネで押さえたものでした。その後王冠やネジ式のキャップなどが発明されて一般的になったという訳です。



他に薩摩や江戸切子を模した小鉢（三〇〇円）やコップは涼しげで夏の食卓にふさわしいものです。ちよつと値が張りますが、薩摩切子を忠実に復元した菱宝切子タンブラー（三九九〇円）は、伝統に培われた繊細なカット技法で、まさに芸術品と呼ぶにふさわしい器です。

落ち着いたレンガ造りの空間で、色とりどりのガラスを一度覗いて見て下さい。

## ナイターは納涼天国

期間：8月9日(水)～15日(火) 21時まで開館

※期間中、浴衣着用の女性は入場無料、男性は団体料金で入場できます。

- **納涼きもだめし (有料)**  
会場：金沢監獄中央看守所・監房
- **納涼お札ラリー (有料)**  
村内各所に隠されたお札をすべて集めると籤引券を差し上げます。
- **ホラーナイト劇場 (有料)**  
会場：宮津裁判所法廷
- **遊びコーナー (有料)**  
会場：金沢監獄中央看守所・監房
- **マドンナに会おう!**  
会場：東京駅警備巡查派出所  
総合案内人として浴衣姿のマドンナが登場します。
- **建物ライトアップ**  
帝国ホテル中央玄関・宇治山田郵便局・内閣文庫・聖ヨハネ教会堂

※催事は都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問合せ下さい。

## ●特別展 ●●●●●●●●●●

### 「大予言！1900年に夢見た未来」

会場：東山梨郡役所2階ギャラリー  
百年前の1900年に、来たるべき二十世紀を夢見て未来像を描いた資料を展覧し、現代の事象と比較することにより、当時の人々の先見性のある想像力を紹介する。

### 展示品

新聞パネル、「風俗画報」、万国博覧会写真パネルなど



絵葉書 夢(南極探検)

# 夏の明治村

平成12年7月20日(祝)  
～8月31日(木)